

日 語 にほんご

第 六 冊

(修改本)

上海外語學院

シャanghaiがいこくごがくいん

1976・11

第六冊 目次

第一課 私が見た中国医療……………一

* 1 に至る……………十二

* 1 において、し、

* 1 とする……………十三

(閱讀文) 病 氣……………十四

第二課 水俣病……………二三

* 自発の助動詞「れる」「られる」……………三九

* 「1 かかわらず」の用法……………四〇

* 「1 との」の用法……………四一

* 1 かに見える……………四一

閱讀文 水俣の漁師たち……………四一

一課 荒廃する日本の教育……………五三

1 そう(に)(も)ない……………六二

1 とでも(いおうか)

いってくれ

* 1 といったところだ……………六三

* ！という風に

* それはそれで

(読 説 文) 歡迎される 勞・農・兵の 大学生

六六

第四課 キューボラの火

七一

* ！以上、！

八三

第五課 新幹線建設工事と下請労働者

八四

* 具合 * 方 * やむをえない

九七

* ！ものを、！

九八

* ！もんだから、！

一〇〇

* ！すら（…ですら、…すらも）

* 断じて！

* ！でしかない

第六課 孔乙己

一〇二

* 見るからに * ！ないことには…ない

一一四

* ！始末だ * 代わり

* ！ときている（から…ので）

一一六

* ふう（風）

* ！がきいてあきれらあ

* かな

* はおろか、いさえ（・まで・も）

* 羽目になる

* 助詞「い」

* くせに

* はずにはいられない

第七課 科学技術文

一、新しい溶接技術

二、人類の敵とたたかう

三、人工臓器

第八課 造船

* 一（の）割に（は）、

* いずれにせよ、いずれにしても

* 一に際して（は）、

（閲読文）発展をとげる上海の造船業

第一課 私が見た中国医療

一 素晴らしいが真似のできぬこと

中国医療は目下わが国でも大流行で、ハリ麻酔や漢方薬はブームともいえる有り様だが、何か一つの「もうけ」主義と結びついて輸入されているという感がある。もちろん、まじめな医療関係者がまじめな動機から中国医学に取り組む動きもかなりはつきりしてきて、これはたいへん素晴らしいことなのだが、その取り組みの中にも、何か中国が自力で開発した「技術」を、その技術を生んだ社会的背景、つまりは気候・風土や政治から切り離して、ちやうど明治以来の西洋医学の技術輸入の流れのまゝに「輸入」しようとしているのではないかという危惧を感じないわけにはいかない。

こんど第二次日本文化界友好訪中団（安藤彦太郎団長）の一員として、中日友好協会の招きによつて、四月二二日から五月九日まで中華人民共和国を訪ねることができた。以上のような中国医学に対するかなりの複雑な思いを胸に抱いて、羽田をとび立ったのである。帰国して、いま私は再び複雑な思いに捕われている。中国医療は確かに素晴らしいかったのであるが、それは決して簡単に「輸入」できるような類のものではないという私の疑念が、これまた予想を遙かに上回って徹底的に再確認されたからである。

中国の人たちの生活を眺めて誰もが強く印象づけられるであろうことは、生活が質素でありながら、人間の生命を支える基盤となる必須条件については徹底的に重視して、それを守ること

力を惜しまないということである。すなわち、食糧の生産と医療と教育と戦争に対する対応策には、彼らの生活レベルと比較すると異様なまでの熱意を払って努力しているということである。逆にいえば生活の基本的条件を重視し、その擁護のためには修飾的部分のレベルアップについては思い切ってこれを後回しにしているという合理性である。

こういう、明らかに日本とは異質の文明を創造しつつある中国社会を見て、そこにその背景として広大な国土と資源に対する人民のゆるぎない自信を見たと思う。このような、異質の社会における医療を判断するには、用うべき判断基準にも当然、従来とは異なった物差しが必要になってくるのであって、このことは帰国後、私自身が繰り返し反芻したところである。

二 基本的に完全した全国の医療網

中国は解放前は医療機関も医療人員も零散し、すべて都市に集中し、人口の八〇%を占める農村は完全に医療から見放されていた。現在では毛沢東主席の「医療衛生活動の重点を農村におくよう」という指示のもとに、すでに全国に基本的な医療網を完成させたものと私は考える。

農村における医療衛生は人民公社がその大部分を担っており、人口にして一、二万の人民公社には例外なく一つの衛生院があり、その下の生産大隊には例外なく衛生室が設けられている。例えば私が訪れた山西省昔陽県大寨の人民公社は一万一千人の人口を持つが、この衛生院は病床数二八ベッド、医師八人の組織で、手術室、分娩室、婦人科診察室、臨床検査室、レントゲン室、調剤室、それに小さな製薬工場を持ち、年間二〇〇件の分娩をひき受け、脳外科以外のすべての手術を実施しているということであった。

生産大隊の衛生室はいわゆる「はだしの医者」が担当し、例えば上海郊外の城東人民公社は一六の生産大隊を持つが、これを五七人のはだしの医者でまかなっている。はだしの医者は生産を離れることなく、助産婦、衛生婦と協力して末端での治療、予防、衛生、衛生教育を担当している。人民公社衛生院の医師は、裕福な人民公社では自力で抱えているが、財力のない人民公社では国がその賃金を負担している。

国はさらに県に一つないし二つの一〇〇〜二〇〇床レベルの中心病院を設け、こうした病院には必ず防疫ステーションと母子保健室が付設されていて、人民公社への巡回医療のキー・ステーションになっている。大寨人民公社衛生院の院長に、脳外科手術の必要を患者は県の中心病院に送るのですかとたずねたら、いえ、県の病院から医療チームがトラックでやってきて、この手術室の中で手術をしてくれるのです、という答えが返ってきた。

鉍山地域の医療網は国営であるが、例えば炭鉍夫七万人、人口三〇万のある石炭鉍山地帯には六つの鉍山病院があり、人口一万に一つの診療所を持ち、この医療網の末端はなんと炭坑の中にまで及び、坑内の各層に一人ないし二人のはだしの医者が二四時間常駐している。医師とはだしの医者を含めると、炭鉍夫一〇〇人に一人の医者がいる割合になるのである。

都市における医療網は工場に必ず設けられている衛生室に医師が常駐しているほかは、国営の大、小の病院および診療所によってまかなわれている。

中国へ行つてはじめて知ったことであるが、中国には四〇〇〜六〇〇床レベルの小児専門病院が三〇以上もある。その多くは都市に集中していて、したがってその数も配置もまだ不完全

ですと関係者は答えるのだが、私が訪ねた北京児童病院は六〇〇床のレンガ造りの大病院で一九五五年に開設されている。高度成長と高い生活水準を誇るわが国が、はじめて小児病院を一つ持ったのはその一〇年後である。北京市では、さらに各区に一つずつ五〇〇一〇〇床の児童病院を持ち、北京の子どもは必ず「自分の所属する病院を持つ」のである。児童病院は保健所の役割を兼備しており、病院の医療関係者は周辺担当地域の子どもたちの保健衛生のすべてを、地域にむき、保育所や幼稚園の医師と協力して担当している。

三 実践を重視した医学教育

解放前に医師の数が二万人しかいなかったのを、以上のべた基本的医療網を円滑に運営させるためには、一〇〇万人以上に増加させなければならなかったのであるから、これを従来の西洋医学教育の拡充によって達成するには根本的に無理があったのも当然である。そこでさまざまな措置がとられた。その一つがはだしの医者養成であり、もう一つは解放前は明治維新以後の日本における漢方医と同じく軽視されてきた中医の復活であり、さらに医師養成教育期間の短縮である。従来の医学院（医科大学）では六ないし八年の教育期間を要したが、教科の再検討によって現在ではそれが三年ないし三年半に短縮されている。

これらはすべて日本における医師養成の動向とは完全に逆の方向にあって、日本では「よい医師」を入手するためには、教育年限を延長し、資格試験を厳格化し、野戦病院で鍛えあげられた技術を持つ元衛生兵を医療から締め出し、無医村などでこれらの人たちが住民の信頼をかち取っているものを「にせ医者」として取り締まるのであるから違いは大きい。

さて、医学教育をもっと詳しく知るためには、中国における「教育」の根本理念①を理解しなければならぬが、それは労農兵に奉仕するための知識・技術を身につけるといふはつきりした目的意識で貫かれている点にある。この目標をかなえるためには生徒の異技の段階と教育実施の段階で工夫がこらされている。

中学校を卒業した青年男女は必ず農村、工場または解放軍に入って労農兵のいずれかになり、その中から思想が優れ一定の教養を備えたものが大衆から選ばれて大学に進み、大学を卒業した時には、原則として自分を選出してくれた職場にもどって大学で修得した技術をその職場の発展に生かすのである。さらに大学における教育過程においても教室における授業と並んで、生産現場での実践活動が重要視され、例えば医学部の学生たちは病院の巡回医療班に加わって、農村、工場などの医療の現場で教育を受けるのである。

はだしの医者の場合も、生産大隊の農民青年の中から大衆の目によって選抜されたものが、生産の現場を離れることなく、生産に従事したまま医学の実践教育を受けて医師に育てられていくのである。そして彼らに教育を与えるのは、病院から下放してくる医療隊である。北京児童医院は医務要員の四分の一を一年交代で人民公社に常駐派遣しており、上海第二医学院附属瑞金医院は千床の大病院であるが、ここでは医療要員の三分の一がやはり一年交代で農村や鉅山に出張し、そこで医療、衛生活動、ならびに研究活動を実践する中で、同時にその地域のはだしの医者への教育を行っている。

私が北京の新華書店で購入した『赤脚医生手冊』は、はだしの医者のためのハンドブックであ

るが、その内容がはなはだ豊富で水準も高いのに驚嘆した。飲料水の管理、糞便管理、害虫対策、化学肥料や農薬中毒の予防法ならびに治療法からはじまって、戦傷の救急医療、化学兵器・細菌兵器・原子爆弾に対する対策まで詳しく記述されており、もちろん一般の病気の治療法についても詳述されている。もし、このハンドブックを本当に理解しているものとするとは、だしの医者
の技術水準は相当のもので、もし彼らが日本に来て開業でもすれば繁盛しすぎて困ることになるう。

四 「中西結合」が中国医療の基本理念②

次は中医の問題であるが、現在は中医養成の医学院では西洋医学も、洋医養成の医学院では中国医学もある程度教育している。既成の中医、洋医については、例えば私の訪れた北京児童医院では医師一八〇人中七〇人が中医で、一一〇人が洋医である。洋医の方は半数以上が鍼灸、漢方などの中国医学の技術を修得しているが、中医に対してこれに新しく西洋医学を学習させることは控え、むしろ今までに蓄積してきた彼らの中国医学の経験を整理、集約させることに重点をおいていた。「中西結合」は現在の中国医療の基本理念の一つであり、ハリ麻酔に見るようにその素晴らしい成果もすでに実現していることはご承知のとおりである。

医療技術に対する中国の根本理念は、その技術が誰のためのものかということを徹底的に重視するところにある。医療は労働兵のためのものという視点が貫かれている。都市に集中している大病院の医師や看護婦たちが、三分の一、四分の一ずつ交代で農村、鉅山に長期出張する仕組みもこの考え方のあらわれの一つである。辺境地域に居住する五五にのぼる少数民族の子弟から選抜された青少年が学ぶ北京市の中央民族学院を訪れた時の私の質問に対して、関係者は多くの資

料をもってこれら少数民族の医療衛生水準が解放後急速に上昇した事実を説明してくれた。各少数民族の青少年から必ず毎年何人かが医学院に進み、医師となって再び自分たちの居住地域にもどる仕組みが出来上がっており、さらに都市の大病院の編成する医療チームが一年、時には二年の長期にわたる巡回医療隊としてこれら少数民族の医療衛生水準の向上に奉仕することも活発に行われている。

私たちは北京医学院第三分院でハリ麻酔による手術を見学した。頸椎の骨腫、甲状腺腫の摘出、慢性虫垂炎ならびに抜歯であった。抜歯は子どもを含む三人の女性に対して行われたが、患者の苦痛は明らかに私たちが日本で受ける抜歯の際のそれより少ないようであったし、抜歯後の出血も確かに少なかった。慢性虫垂炎ならびに甲状腺腫の摘出手術では患者は手術の間、かなり緊張していた。麻酔医は絶えず患者と会話を交わし、患者が痛くはないがひっぱられる感じがすると言った際に、鎮痛剤を静脈内に注射した。甲状腺腫の摘出手術はハリ麻酔開始後、一時間終了し、首に絆創膏をはってもらった患者は手術が終わると草履を自分ではいて軽く一礼して歩いて手術室を出ていった。手術時間は日本のそれに比べてかなり短く、出血量は極めて少なく、輸血は行われなかった。頸椎骨腫の手術はかなり痛そうで、患者は冷や汗を流して頑張っていたが、私には少し残酷だと思われ、私なら全身麻酔でやってもらいたいと考えたことである。ハリ麻酔の長所は安全、経済、簡単、出血が少ない、術後の回復が早いという点にあり、短所は痛覚は消失しても内臓がひっぱられる感覚は残るので、神経質な人には耐えられぬという点にある。北京児童医院の話では、子どもの手術では二〇%ぐらいしかハリ麻酔を用いていないとの

ことであつたが当然であろう。

（日比逸郎の「中国訪問記——大衆に依拠する医療——」『朝日ジャーナル』一九七五年

六月六日号所収）より抜粋。筆者は小児科医）

〔注〕

① 作者は、中国における教育の根本理念は労働兵に奉仕するための知識・技術を身につけるものだと言っているが、わが国の教育方針は教育を受けるものを、徳育、知育、体育のいずれの面でも成長させ、社会主義的自覚をもつ、教養をそなえた勤労者にそだてあげることである。なお、「理念」ということばは哲学用語。日本では「人事に関して、何を最も理想的なもの、最高のものとするかについての根源的な考え方」という意味で用いられる。

② 「中西結合」はわが国の医学における発展の方向であるが、作者は基本理念と言っている。

☆ 単語

- ・真似（まね）〓まねること 仿效、模仿
- 目下（もつか）〓ただいま 当前、目前
- ・大流行（だいりゅうこう）〓非常に流行する
- ・大歓迎 ・大好物（だいこうぶつ）
- ・ハリ麻酔（針まとい） 针刺麻酔

- ・ブーム 突然出現の景气
- もうけ（儲け） 賺錢
- （うという）感がある 令人有（了之矣）的感覺
- （うに）取り組む（とりくむ）〓解決・処理
- するため、一生懸命にする 着手（进行）

・動き（うごき） 动向、动态

・背景（はいけい）

・風土（ふうど） 風土、水土

・切り離す（きりはなす） 切断、断开、分开

・危惧（きぐ） 担心

・安藤彦太郎（あんどうひこたろう） 姓名

・羽田（はねだ） （東京的）羽田机场

・捕われる（とらわれる） 被擒住（逮住）

・類（たぐい）

・疑念（ぎねん）

・印象づけられる 印象を与えられる

・異様（いよう） 奇异

・逆にいえば 反过来说

・レベルアップ 提高水準

・後回し（あとをわし）にする 往后推、推迟

・ゆるぎない（揺るぎない） 不可动摇的

・物差し（ものさし） 尺（转）标准

・反芻（はんすう） 反芻、一再回味（思考）

・薬剤（やくざい）

△——師 药剂师

・見放す（みはなす） 見離す 抛棄

△農村は完全に医療から見放されていた。

△農村の医療完全被忽视了。

△医者に見放される（因治不好而）被医师

推了手

・病床（びようしやう）

・分娩（ぶんべん） 子を産むこと

・臨床検査室（りんしやうけんさしつ）

医院化验室

・レントゲン室 爱克斯射线室、X光室

・調剤室（ちやうざいしつ） 配药室、药房

・脳外科（のうげか）

・まかなう（賄う） 少ない数量、分量で必要

をみたす。

△百三十元で一家四人の生活をまかなう維持

△十六の生産大隊を五七人のはだしの医者でまかなう。

|| 由五十七名赤脚医生担负起。

裕福（ゆうふく・形动）

福裕的

・抱える（かかえる）

抱、拥有

母子（ぼし）

キー

△キー・ステーション

关键

・トラック

中心站
卡车

小児（しょうに）

・△ー科

・鉾山（こうざん）

矿山

炭鉾夫（たんこうふ）

煤矿工人

・石炭（せきたん）

煤

炭坑（たんこう）

煤井

配置（はいち）

出向く（でむく）目的の場所へ行く→前往

明治維新（めいじいしん）

一九六八年在日本发生的

不彻底的资产阶级革命（运动）

教科（きょうか）

课程

・検討（けんとう）

研究讨论

締め出す（しめだす）

把…关在门外

・取り締まる（とりしまる）

取缔

・生かす（いかす）

活用、有效地利用

瑞金（ずいきん）

・出張（しゅつちやう）

出差

・ハンドブック

手册

驚嘆（きょうたん）

・飲料水（いんりょうすい）

・糞便（ふんべん）

・戦傷（せんしょう）

・細菌（さいきん）

原子爆弾（げんしばくだん）

原子弹

・既成（きせい）|| いま存在している

既成

控える（ひかえる） 节制、打消…的念头、

暂先不…

・仕組み（しくみ） 结构、安排、做法

・のぼる（上る）

△階段を―― 上楼梯

△三十万人に――大集会 〓三十万人に達

する大集会。 達……

頸椎（けいつい）

骨腫（こつしゅ） 〓骨（ほね）の腫瘍（しゅ

よう） 骨腫瘤

甲状腺（こうじょうせん）

摘出（てきしゅつ）

・虫垂炎（ちゅうすいえん） 俗称は「盲腸炎」

抜歯（ばっし）

・ひっぱる（引張る）

拉

・鎮痛剤（ちんつうざい）

・静脈（じょうみゃく）

終了（しゅうりよう） 〓終わる

絆創膏（ばんそうこう） 橡皮膏

草履（ぞうり） 〓草履（一般指橡皮、海綿）靴鞋

行一个礼

一礼（いちれい） 冷汗

冷や汗（ひやあせ）

△――を流す（掻く）

痛覚（つうかく）

日比逸郎（ひびいつろう）

姓名

☆ 文 法

一、動詞・助動詞終止形に至る「原義为「至、到、到达」，翻译时要灵活

「结果加深了对…的认识

「——するようになる」という意味。文章に用いられる。

* 水候病の悲惨さを知り、日本の全国民は公害の恐ろしさについて認識を深めるに至った。
* 日本では公害がひどくなるにつれて、公害防止産業を発展させようという動きが見られるに至った。↓結果↑出現…的动向

* 水候病の原因究明を妨害したり、それに積極的に取り組もうとしなかった専門家集団も今では批判されるに至っている。↓如今（终于）受到了……

二、体言 において、↓在…、在…上（方面）

文章に用いられ、「で」「に」と同じ意味の格助詞のように用いられる。

① 場所を表わす
* 資本主義諸国では、公害が大きな社会問題になっているが、わが国においては、「三廢」を综合利用している。

* 農業は大寨に学ぶ全国会議が昔陽県において開かれた。

② 場合、ことがらを表わす
* 右からの巻き返しに反撃する闘争において、鄧小平の修正主義路線の誤りを批判した。

* 上海あたりで三毛作をする場合（においては）、普通の水稲、麦の生育期間は長すぎるの

で、いろいろな工夫がこらされている。「工夫をこらす」|| 細心钻研

③ 時、時代を表わす

* 抗日戦争の時にいても、わずかだが、中国人民の抗日戦争を援助した日本人もいた。

* 二千年にわたる封建時代においては、婦人は四つの権力に抑圧されていた。

④ 考え方、見方を表わす

* 中国共産党においては、社会主義の全歴史段階において階級闘争が存在するとしている。「
」とする」(次の文型を参照)

* 劉少奇の修正主義路線においては、専門家に頼って工場管理を行うべきだとした。

三、体言、活用語終止形とする|| 假定……; 认为……。

「かりにそのように考える」という意味を表わす。

* 人民公社では、幹部が一日中、会議に出席した場合には、それを一労働日とする。

* 四辺形 A B C D において、A B と D C は等しいとする。

なお、假定条件としては次のように用いられる。

○ 「——としたら、」 ○ 「——とすると、」 ○ 「——とすれば、」

* 彼が予定通り九時に家を出たとしたら、もう一時間もたっているのだから、もう(|| そろそろ来てもいいころだ。

* この病気が食中毒だとすると、食べたもののなにか悪かったのだろうか。